

八重瀬町更正保護女性会による ミニ集会在開催されました

八重瀬町更正保護女性会によるミニ集会在が5月21日、八重瀬町中央公民館で開催されました。更正保護女性会とは、非行や犯罪をなくし、過ちを犯した人たちの立ち直りを支援するために立ち上がったボランティア団体です。この日は、講師に国吉盛一糸満警察署長と新地勝男南部保護区保護司会長を招き、町内を含めた非行・犯罪状況について、また保護司会の活動状況について理解を深めました。同会の宮城悦子会長は、「今日のお話をしっかりと心に受け止め、今後の更生保護の活動に生かしたい」と話しています。なお、同会では、更正保護の活動を多くの人に広めたいと会員を随時募集しております。

申し込みについては八重瀬町役場社会福祉課（998-9598）です。



国吉盛一糸満警察署長(左)と新地勝男南部保護司会長



婦人リーダー研修で環境について学ぶ

八重瀬町婦人会と読谷村婦人会相互の情報交換を目的に婦人リーダー研修が、6月6日から7日までの2日間、読谷村の瀬名波公民館で行われました。読谷村婦人会瀬名波支部からは、道路脇に花を植える活動や、ダンボール・空き缶を再利用する活動など身近なエコに取り組んでいる事例が紹介され、環境について学ぶ機会になるとともに、八重瀬町の婦人会活動のあり方を改めて考えさせる研修となりました。



今の成績に満足せず 上位入賞を目指したい

県立南部商業高校（山入端恵子校長）のボウリング部が6月1日に行われた県高等学校総合体育大会ボウリング競技の総合の部において男女とも3位に入賞を果たしました。今年の3月26日に行われた全国大会においてもチーム戦で男子8位、女子5位と、ともに入賞に入るなど着実に実力をつけています。比嘉勇太さんは「全国大会で入賞できたことがチームに大きな自信をつけてくれた」と県大会の成績を振り返りました。7月には、全国大会の派遣も決まっております、「今の成績に満足せず上位入賞を目指したい」と次の大会に意欲を見せています。



ボウリング部員(比嘉勇太さん(前列中央))と学校関係者

3 団体合同定期総会開催

八重瀬町では、安全で快適な生活の実現に寄与することを目的に、糸満警察署及び関係機関等と連携を図り、3つの団体（八重瀬町交通安全推進協議会、糸満地区交通安全協会八重瀬支部、糸満地区防犯協会八重瀬支部）を設置し、交通安全の確保や地域の防犯活動を行っています。これらの団体の合同による定期総会が5月21日、具志頭改善センターで開催され、約80人が出席しました。総会では、各々の団体の平成20年度事業経過及び収支決算についての報告や平成21年度事業計画及び予算案の審議が行われました。また、防犯協会八重瀬支部長を務めてきた平仲正美さんが退任するにあたり新役員に宇世名城の知名定一さんが選任されています。



目指すのは、救助現場で生かせる技術の習得

第33回沖縄県消防救助技術指導会が6月3日、沖縄県消防学校で行われ、県内の18消防本部が一同に集いました。その中で、八重瀬町を管轄する島尻消防本部が陸上部に出場し、2種目で上位の成績を収めました。これを受け、今年7月17日には、沖縄県代表として第38回九州地区救助技術指導会に出場することが決まっています。比屋根陽文消防長は、「目指すのは、本指導会の出場を通して、救助現場で生かせる技術を習得すること。安全・確実・迅速という言葉を念頭に、地域住民の生命財産を守るため、日々の訓練を大切に邁進していきたい」と話しています。



赤十字奉仕団出発式

県民の生命と健康を守るため、医療事業や福祉事業などを推進している八重瀬町赤十字奉仕団の出発式が5月20日、八重瀬町役場で行われました。当団体では、昨年度赤十字交付金を利用して町内の小中学校6箇所と公共施設4箇所にAEDを設置しています。また、AEDの操作法を学ぶために講習会も開催するなどこれまで以上に医療事業及び福祉事業に貢献しています。出発式では、伊集秀子委員長から「赤十字奉仕団の精神を多くの町民が理解してもらうよう運動に取り組みましょう」と激励のあいさつがありました。



ジャンボ・ミニカボチャ展 多くの区民が楽しむ

カボチャ作りを通し、大頓自治区の活性化を図ろうと「ジャンボカボチャ・ミニカボチャ展」が6月7日、大頓公民館で開催されました。県農業活性化センターの屋宜宣行理事長が提案し、今年の1月から大頓区民に栽培講習会の開催やジャンボカボチャの種を配布するなど後押し。また、大城有機肥料からも堆肥の提供もあるなど多くの人の協力が実った企画展となっています。屋宜さんは「区民の交流のきっかけになるだけでなく、農作物の基本となる土づくりや農業技術の大切さを再認識する機会になってほしい」と期待しています。この日は大頓のアブシバレーも行われ、多くの区民が参加して大きさや品種の異なる様々なカボチャを見比べ楽しんでいました。



平和の尊さを後世に八重瀬町慰霊祭

次世代へ平和の尊さを伝えようと八重瀬町慰霊祭が6月15日、具志頭城址で執り行われ、約120名が出席しました。具志頭城址の魄粹（はくすい）の塔には、多くの戦没者が祭られており、参列者らは、平和を願う戦没者に黙とうを捧げました。また、新門竹一遺族会会長の代読で金城秀雄遺族会副会長が、「戦後64年経った今も戦争の悲惨さは、私たちの心の中に強く生き続けています。私たちは戦争の悲惨さを体験した遺族として平和の尊さを後世に伝え世界の恒久平和が一日も早く実現できるように努力していきたい」と平和の誓いをたてました。その後に参加者らは、焼香を行い御霊のご冥福を祈りました。

